



サルビア

令和元年5月28日 第8号

花と、緑と、ふれあいと ～地域の方にお世話になっています～

「花と、緑と、ふれあいと、心豊かな東小学校」を建設スローガンにスタートした本校は、創立20年目を迎えます。私は、本校に赴任して3年目となります。その中で感じるのは、学校を応援してくださる保護者、地域の方々のあたたかな思いです。それはきっと、時が流れても変わらずに地域に受け継がれてきた「心豊かな子どもを育てる」という教育観があるからだと思います。今、本校には教育活動を応援してくださる方がたくさんいます。地域の方とふれあいながら子どもが心を育んでいく、本当によい地域だなあと感じています。

学校農園と栽培活動

農園での栽培活動は、生活科や理科、総合的な学習の時間等の目標を達成する過程における「心を育む豊かな体験活動」としてたいへん重要なものです。

4月に教職員が除草作業を行った後に、毎年、農園整備でお世話になっている、齋藤秀和様に今年も耕耘作業をお願いしました。連休明けには、右の写真のとおり、きれいな畑ができあがりました。これからの日々、各学年の学習内容に合わせた栽培活動が始まります。子どもは実体験を通じた学びを楽しみにしています。



総合的な学習の時間の取組

5年生 「小菊の栽培」、6年生 「サルビアの栽培」

5月23日(木)は「花いっぱい運動」の協力者で、学校評議員でもある久保田忠雄様をお招きして、5年生が「小菊の挿し芽」、6年生が「サルビアの種まき」をしました。

その中で、5年生は「小菊の里」の歴史と当時の人々の思いを、6年生は「サルビア」と旧赤堀町や赤堀東小学校との関わりについて教えていただきました。

旧赤堀町では、「豊かな町づくり」の一環として、老人会や各種団体、花の愛好家達が毎年道路沿いにサルビアを植えていたそうです。そして、東小学校ができた時、心豊かな子どもたちが育つようと、校章を「サルビア」にしたのだそうです。町の人々の思いを受けて、見事な花が咲かせられるように世話をしたいと思っています。



小菊の里：今から19年前に、農業委員さん達を中心となり、地域や赤堀町発展のため、当時はあまり人が来なかった赤堀町の北端に位置する磯区峰岸山南面に小菊 22,000株とサルビア 3,000株を植えたのが始まりです。(久保田さんのお話から)

旧赤堀町の花：「サルビア」(昭和55年8月23日制定)

制定理由：花が赤く、赤堀町の赤にふさわしく、人々を長い間楽しませてくれ、赤堀町がながく栄えるように。

(出典：「まんが赤堀町誌」より)